




各 位

2026年6月26日

会 社 名  日本タングステン株式会社
代表者名 取締役社長 中原 賢治
(コード番号 6998 東証スタンダード市場、福証)
問合せ先 取締役常務執行役員 原口 寿
経営管理本部長
(TEL 092-415-5500)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日（2026年6月26日）開催の取締役会において、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

記

1. 現状分析

(1) 資本収益性

- ・株主資本コストは5%～7%と認識。一方で、投資家から見た株主資本コストは流動性リスクなども加味され、7～10%であると認識。
- ・2026年3月期決算にて特別損失を計上したことにより、当期純利益が減少し、ROEも低下。投資家が想定する株主資本コストを下回る。
- ・好業績時に、投資家が想定する株主資本コストに達する水準。

(2) 市場評価

- ・2026年に入り、株価が上昇し、PBRは0.7倍程度で推移。
- ・株式時価総額の上昇および2026年3月期決算での特別損失計上による当期純利益の減少により、PERが上昇。
- ・株式時価総額が東証市場の中で相対的に低いポジションと認識。

2. 取組みの方向性

- ・当社グループの経営理念、パーパスおよび長期的目標である「サステイナブルビジョン 2050」の実現に向けて、中期的な目標である創立100周年に向けた「100周年ビジョン 2031」および2028年度を最終年度とする「日本タングステングループ 2028 中期経営計画」において目指す姿となる「ビジョン 2028」を設定。
- ・原材料の調達難や価格高騰、人件費の上昇等により厳しさを増す事業環境下で、このような「制約」を企業変革の「機会」として捉え、企業価値を向上し、持続的な成長を実現するため、2026～2028年度までの3か年を対象とする「日本タングステングループ 2028 中期経営計画」を策定。本資料では、成長戦略・資源配分・収益性/資本効率の数値目標や配当方針の変更等を中心に取組みを説明。

以 上

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

our purpose

より少なく、よりよく。

BUILDING A BETTER WORLD FROM LESS.

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

2026年6月26日

 日本タングステフ株式会社



- 1** 現状分析
- 2** 企業価値向上に向けた取組み



1 現状分析

2 企業価値向上に向けた取組み



資本収益性に関する現状分析

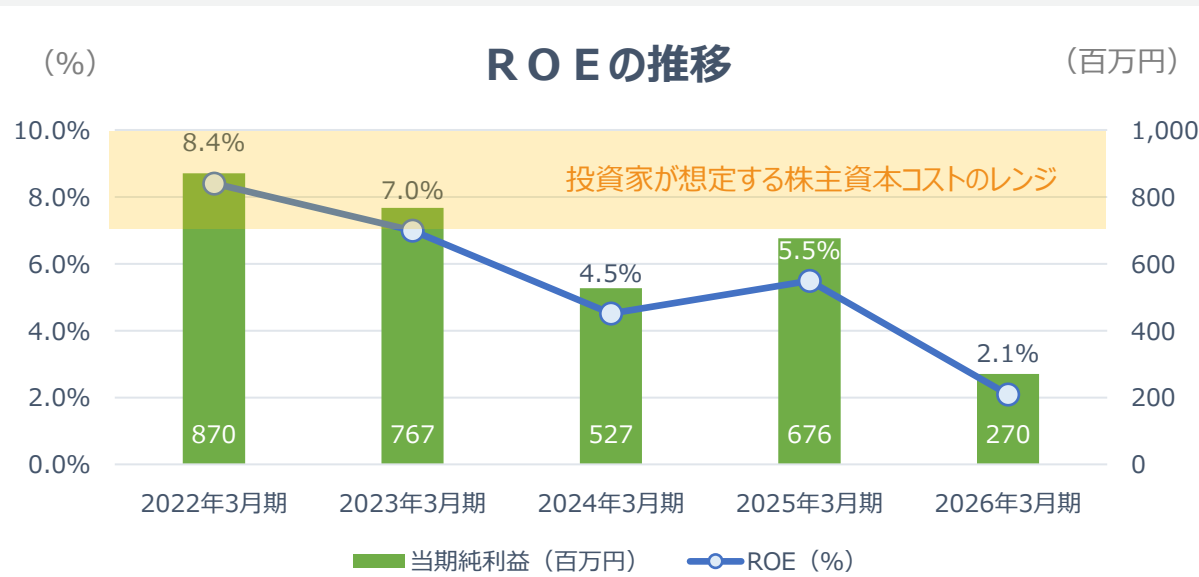


株主資本コスト

- 当社算定の株主資本コスト（CAPM）は、5%～7%と認識。
- 投資家から見た株主資本コストは流動性リスクなども加味され、7%～10%であると認識。

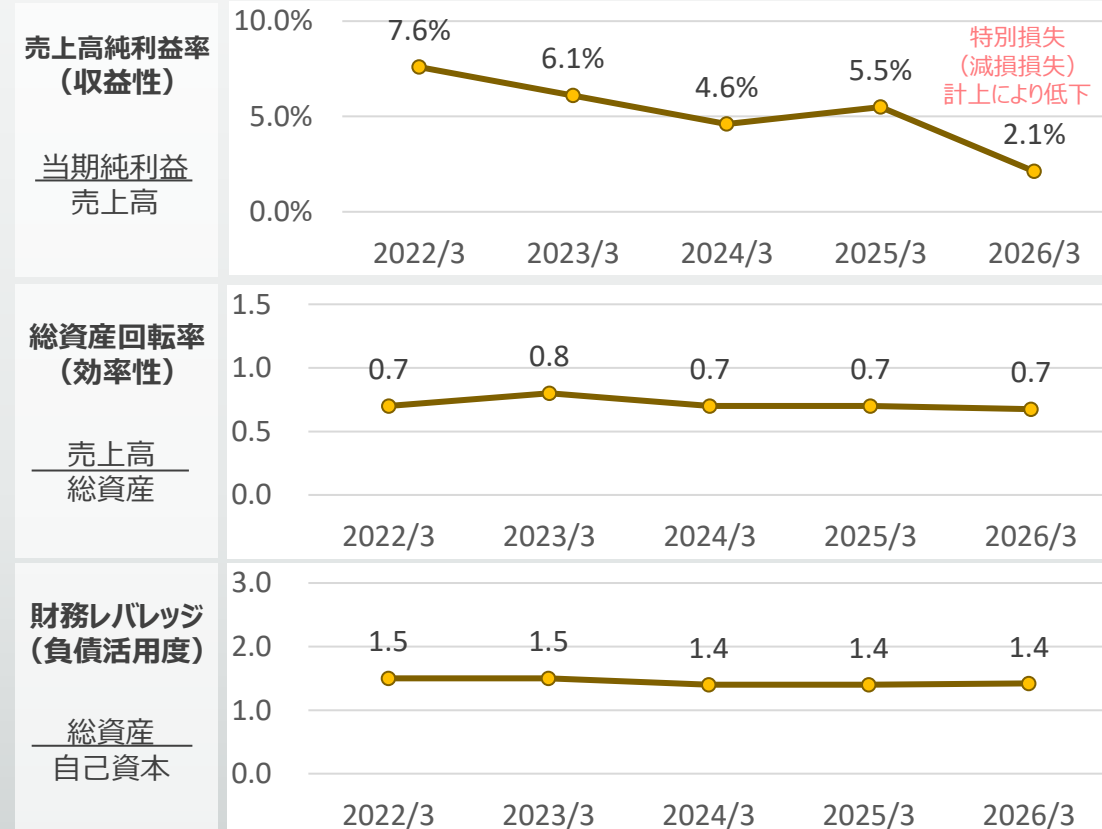
資本収益性

- 2026年3月期決算にて特別損失を計上したことにより、当期純利益が減少し、ROEも低下。投資家が想定する株主資本コストを下回る。
- 好業績時に、投資家が想定する株主資本コストに達する水準。



投資家が想定する株主資本コストの推定

リスクフリーレート	+	B値	×	市場リスクプレミアム	+	流動性リスク
2.5%		0.5~0.8		6%		2~3%
= 7 ~ 10%						





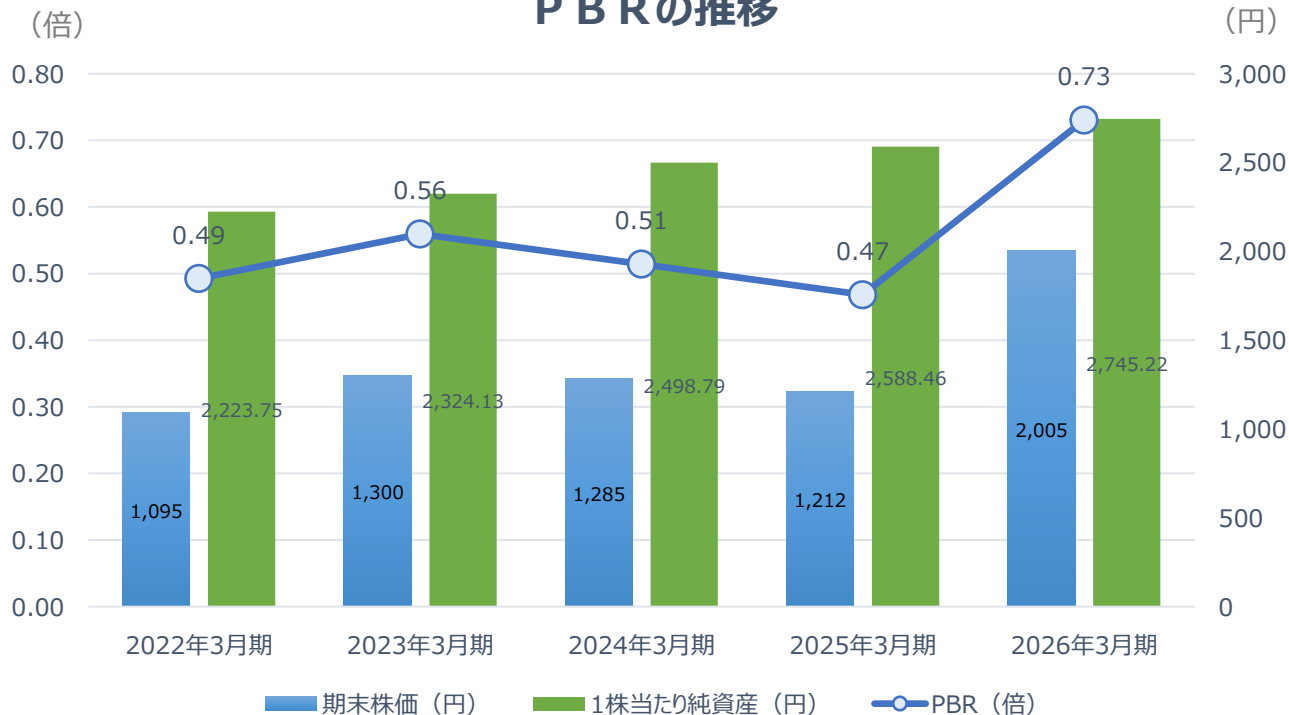
市場評価に関する現状分析



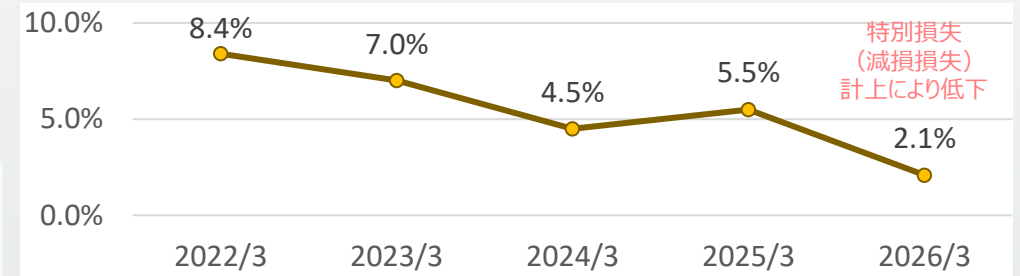
市場評価

- 2026年に入り、株価が上昇し、PBRは0.7倍台で推移。
- 株式時価総額の上昇および2026年3月期決算での特別損失計上による当期純利益の減少により、PERが上昇。
- 株式時価総額が東証市場の中で相対的に低いポジションと認識。

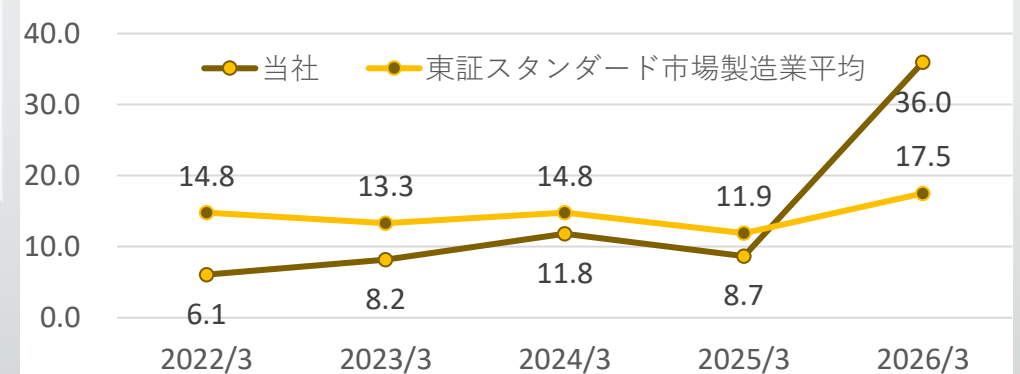
PBRの推移



ROE (自己資本利益率) の推移



PER (株価収益率：株式時価総額÷当期純利益) の推移



※東証スタンダード市場製造業平均値は、東京証券取引所の公表値を引用



1 現状分析

2 企業価値向上に向けた取組み



わたしたちの理念と未来像

■ 当社グループの経営理念、パーパスおよび長期的目標である「サステイナブルビジョン2050」の実現に向けて、中期的な目標である創立100周年に向けた「100周年ビジョン2031」および2028年度を最終年度とする「日本タングステングループ2028中期経営計画」において目指す姿となる「ビジョン2028」を設定。

わたしたちの理念と未来像

PHILOSOPHY
わたしたちの使命・理念



PURPOSE
わたしたちの存在意義



VISION
わたしたちの
目指す未来像



VALUE
わたしたちの価値観



● 企業理念

のな日本タングステンは、世界の人々と従業員の明るい未来を実現するために

- マテリアルからはじまる価値創造に挑戦し続けます。
- 常にNo.1を目指し、かけがえい存在であり続けます。

● パーパス

より少なく、よりよく。BUILDING A BETTER WORLD FROM LESS.

● サステイナブルビジョン2050

「より少なく、よりよく。」に共感する多くのパートナーと共に、物質的制約を越えていくソリューションを創造し続け、資源の枯渇や気候変動といった社会課題が解消された世界を実現している。

● 100周年ビジョン2031

挑戦する組織とマテリアル&デザインの力によって、より少ない時間と資本からより多くの価値を創造し、持続可能な世界への貢献を加速している。

● ビジョン2028

日本タングステングループは、一人ひとりの活躍とつながりによって、人と資源の制約を乗り越え、選ばれる存在になっている。

● バリュー

- 私たちは、情熱を持って、失敗を恐れずチャレンジします…………… 挑戦
- 私たちは、当事者意識を持って、すぐ行動しやり遂げます…………… 責任
- 私たちは、相手の立場になって、期待以上で応えます…………… 誠実

サステイナブルビジョン2050 の達成に向けた 「5つの成功の柱」

CN

Carbon Negative

カーボンマイナスへの挑戦

CE

Circular Economy

枯渇リスクの高い
資源の有効活用

CV

Creation of Value

提供価値の転換と
新たな価値の創出

CW

Upward spiral of Creativity
and Well-being

働きがいと創造力の
スパイラルアップ

CX

Creation with real
& digital transformation

リアルとデジタルの融合



日本タングステングループ2028中期経営計画

- 原材料の調達難や価格高騰、人件費の上昇等により厳しさを増す事業環境下で、このような「制約」を企業変革の「機会」として捉え、企業価値を向上し、持続的な成長を実現するため、2026～2028年度までの3か年を対象とする「日本タングステングループ2028中期経営計画」を策定

「日本タングステングループ2028中期経営計画」の概要

100周年ビジョン 2031	挑戦する組織とマテリアル&デザインの力によって、より少ない時間と資本からより多くの価値を創造し、持続可能な世界への貢献を加速している。			
2028中期経営計画 全社重点戦略	<p data-bbox="639 762 873 801">ビジョン2028</p> <p data-bbox="983 743 2125 819">日本タングステングループは、一人ひとりの活躍とつながりによって、人と資源の制約を乗り越え、選ばれる存在になっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="591 853 1439 1015"> <p data-bbox="639 858 708 896">CV Creation of Value</p> <p data-bbox="784 896 932 986">希少資源を通じた 価値最大化</p> <ul data-bbox="963 886 1439 986" style="list-style-type: none"> ●循環型ビジネスモデルへの挑戦 ●価値創造プロセスの推進 ●事業ポートフォリオの最適化 </div> <div data-bbox="1498 858 2405 1015"> <p data-bbox="1531 896 1625 935">CW Upward spiral of Creativity and Well-being</p> <p data-bbox="1676 896 1905 982">働きがいと創造力の スパイラルアップ</p> <ul data-bbox="1946 905 2405 972" style="list-style-type: none"> ●人的資本経営の推進 ●ビジョンマネジメントの強化 </div> </div>			
KGI	2028年 営業利益 7 億円以上	ROE 5 %以上	2031年 営業利益 20 億円以上	ROE 10 %以上
KPI 2028	01 エンゲージメントスコア (2025年度比) +6 %	02 希少資源使用量あたりの付加価値 (2025年度比) +10 %	03 成長・コア事業の営業利益構成比 (2025年度比) +10 %	04 2028年までに創出する新商品の営業利益構成比 10 %



- 「日本タングステングループ2028中期経営計画」では、5つの全社戦略を設定。
- 人と資源に関する制約の課題を乗り越えるべく、「希少資源を通じた価値最大化」「働きがいと創造力のスパイラルアップ」を重点戦略とする5つの全社戦略に注力する。

5つの全社戦略

重点戦略

CV

Creation of Value

CE

Circular Economy

CW

Upward spiral of Creativity and Well-being

(1) 希少資源を通じた価値最大化

重点
施策

- ①循環型ビジネスモデルへの挑戦
- ②価値創造プロセスの推進
- ③事業ポートフォリオの最適化

(2) 働きがいと創造力のスパイラルアップ

重点
施策

- ①人的資本経営の推進
- ②ビジョンマネジメントの強化

(3) DX戦略

(4) アライアンス戦略

(5) 財務・資本戦略



- 収益力（稼ぐ力）を高める事業戦略と資本効率を高める財務戦略を融合させた企業構造改革を着実に実施し、持続的に社会・市場への貢献を最大化することで企業価値を高める。

定量ビジョン | KGI

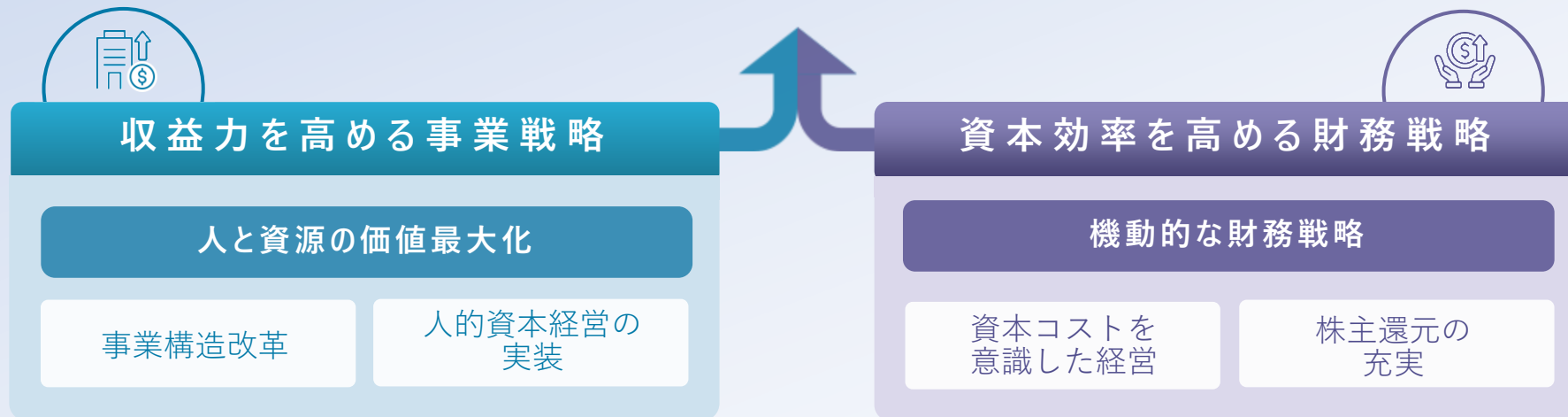
2031年

営業利益 **20** 億円以上 ROE **10** %以上

人と資源の制約を乗り越え、将来の大きな成長に向けた強固な基盤を確立します。

2028年

営業利益 **7** 億円以上 ROE **5** %以上





- 2028中期経営計画期間（2026~2028年度）におけるキャッシュアロケーションを設定。
- 成長戦略により得られる営業キャッシュフローおよび手元現預金等を原資として、「コア・成長事業」「安全基盤の強化」「研究開発」「人的資本」に投資を配分する。



単位：百万円

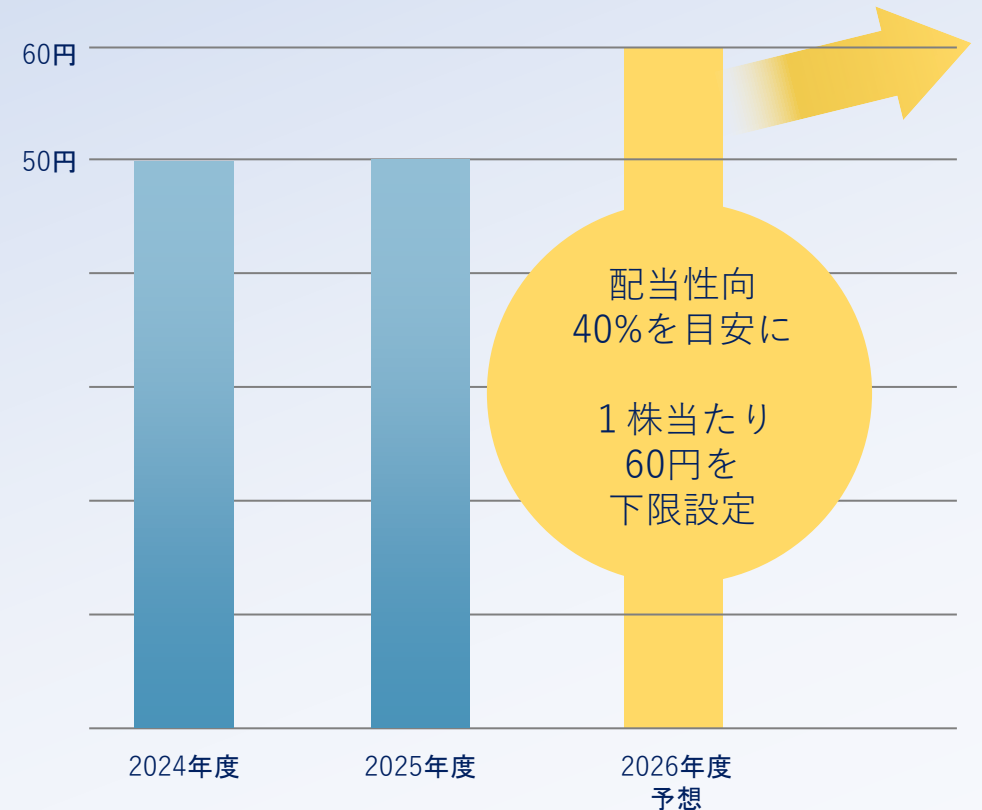


- 安定的・継続的な配当を実施していくことを基本に、株主の皆様への当社の利益還元を高めるべく、その姿勢を明確にするため、配当方針を変更し、株主還元の充実を図る。

配当方針変更のポイント

配当性向	年間の1株当たり配当金額の下限
親会社株主に帰属する当期純利益の30%とする目安を、40%とする目安に引き上げ	年間の1株当たり配当金額の下限50円を、下限60円に引き上げ

1株当たり年間配当金の推移





日本タングステングループ2028中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

当社ホームページ経営計画サイト



おことわり

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に計画したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。